令和３年度　学校評価　総括評価表

徳島県立徳島視覚支援学校

学校経営方針

1　徳島県教育の基本方針

「徳島ならでは」の教育により、大きな夢や高い目標をもって、困難にぶつかっても挑戦し続け、未来を切り拓いていく、本県の宝である「人財」の育成を目指します。

2　徳島視覚支援学校の使命

徳島視覚支援学校は徳島聴覚支援学校と同じ校舎内に独立して併置する全国でも類のない学校である。両校が連携・協働し、「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を行うとともに、県内唯一の視覚障がい教育を担う学校としての役割を果たし、「共生社会の形成につながる特別支援教育」を推進する。

3　目指す学校像

（1）　幼児児童生徒の人権を尊重し、一人一人を大切にする教育を学校におけるすべての教育活動をとおして行う学校

（2）　視覚障がいや多様な障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援ができる学校

（3）　視覚障がいの専門性を校内外で発揮できる学校

4　本年度の重点目標

（1）　ICTを効果的に活用するなど，幼児児童生徒の障がいの状況や適性に配慮した分かりやすい授業，学校行事，生徒指導，生活指導を実践する。

（2）　幼児児童生徒の可能性を見据え，発達段階や適性に応じた進路指導の充実を図る。

（3）　地域での視覚障がい等に対する専門的支援と理解啓発，及び本校の教育活動に関する周知活動を推進する。

（4）　会議の在り方を工夫するとともに，可能な限り校務の省力化を図ることにより，働き方改革を推進する。

重点目標（1）	ICTを効果的に活用するなど，幼児児童生徒の障がいの状況や適性に配慮した分かりやすい授業，学校行事，生徒指導，生活指導を実践する。

中学部

目標	・ICT機器やコミュニケーション代替機器などを活用し，生徒が少ない支援で自主的に取り組む授業の実践・検討を行う。

具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価（評定）	学校関係者の意見	
・ICT機器やコミュニケーション代替機器などを活用した授業実践のケース会を行い，生徒が自主的に学習活動に取り組むための効果的な活用方法を検討する。	①各クラスで使用しているICT機器などの使い方を教員間で共有し，効果的な活用方法について検討する。（年間1回以上） ②①などを用いた授業実践のケース会を行い，授業改善を行う。（年間6回）	①1学期に1回，2学期に2回行ない，教員間でアプリやICT機器の使い方を詳しい教員に教わったり，操作などの体験をしたりした。 ②目標回数に達しなかったが，各教員が授業で取り組んだ学習活動や使用したアプリ，コミュニケーション代替機器などを紙面にまとめ学部内で共通理解を計った。	B	ICTを有効に使ってほしい。機器が使えないと発展がない。うまく使える人材になってほしい。	・GIGAスクールで支給された生徒用iPadはアプリのダウンロードなどで制約が多く，現在は余暇活動で動画視聴などの利用が主となっている。また，視覚と知的障がいを併わせ有する生徒も自分で操作をするのが難しいなどの課題がある。ただ，どの教員もICT機器やコミュニケーション代替機器などを学習活動に取り入れているので，生徒自身が効果的に活用していけるように，今後も教員間で情報交換したり，相談や助け合いができるようにしたい。

高等部普通科

目標	社会参加・自立をめざし，生徒一人一人に応じた学力や体力の向上を図る。

具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価（評定）	学校関係者の意見	
iPadやUDブラウザーを活用し，生徒一人一人の見え方や適性に配慮した授業・学校行事に努める。	①生徒一人一人の見え方や適性に配慮できるように教材研究を行い，iPadやUDブラウザーを授業・学校行事に活用する。 ②生徒自身がICTを活用する機会を学期ごとに1回以上は設定する。	①Zoomを用いてのオンライン講座を実施したり，UDブラウザを活用したりして，生徒の見え方に応じた教材提示を行うことで，生徒の理解を促すことができた。 ②とくしま特別支援学校技能検定（ICT）にも取り組み，ICTスキルの向上と共に検定で1～2級を取得することができた。また，キャリアパスポートや就業体験報告会のプレゼンテーションをPowerpointを使って作成した。	A	家庭学習にも使えるといいと思う。	②ICTを活用した取り組みをはじめ，生徒に応じた学力や体力の向上につながるよう，教材研究や情報交換を行い，学習の成果を共有する機会を設ける。

<table>
<tr><td rowspan="3">職業学科</td><td>目標</td><td colspan="5">生徒全員からICTを活用することで，学習がしやすくなった，生活がしやすくなったとの意見が出る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な活動計画</td><td rowspan="2">評価指標</td><td colspan="2">評価</td><td>学校関係者評価</td><td rowspan="2">次年度への課題と
今後の改善方策</td></tr>
<tr><td>評価指標による達成度
及び活動計画の実施状況</td><td>総合評価
（評定）</td><td>学校関係者の意見</td></tr>
<tr><td>各生徒に適したICTを提示し，活用を促すと共に，教職員間で使用方法を共有し，生徒からの相談に誰でも対応できるようにICT研修を行う。</td><td>提示したICTの研修を1回以上行い，生徒の相談にいつでも乗れるようにする。</td><td>教員研修は3回行い，教員間で使用方法などを共有した。生徒全員がICTを活用することはなかったが，ICTを使用した生徒の使い方に関する質問などへ丁寧に対応した結果，活用することで学習しやすくなったという意見が出た。</td><td>B</td><td>タブレットを多様し、効果的な授業をしてもらっている。</td><td>生徒全員に対してICTを使用するメリットを理解できるよう伝えるとともに，トラブル対応方法も身につけられるよう支援していく。また，より効果的なICT機器の紹介も行っていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">生徒活動課</td><td>目標</td><td colspan="5">オンラインでの開催などの方法を取り入れ，障がい種別や心理状態の異なる，多様な幼児・児童生徒の在籍に対応した学校行事を実施する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な活動計画</td><td rowspan="2">評価指標</td><td colspan="2">評価</td><td>学校関係者評価</td><td rowspan="2">次年度への課題と
今後の改善方策</td></tr>
<tr><td>評価指標による達成度
及び活動計画の実施状況</td><td>総合評価
（評定）</td><td>学校関係者の意見</td></tr>
<tr><td>・例年実施されている生徒活動課担当行事について，実施方法の改革を図る。</td><td>・体育祭，文化祭等の大きな行事については検討会を設け，各学部や幼児児童生徒の実態に則した実施ができるようにする。
・実態が大きく異なる多様な幼児児童生徒が，一緒に参加できる形態を検討する。
・オンラインであれば実施が可能な行事については，オンラインで実施をする。</td><td>・体育祭については，実施方法に関して，管理職を含めた検討会を設け，文化祭については，各学部の意見が反映されるよう，学部ごとの検討会を設けた。
・体育祭では中高等部の種目において，例年実施している競技を変更し，より多様な実態の生徒が一緒に参加できるものにした。
・生徒の実態や感染症拡大防止に配慮し，5つの行事についてオンラインでの開催の方式を採用した。</td><td>A</td><td>様々な大会、コンクールなどは活動の場、参加する喜びなどがある。個人情報の観点から参加しないということもあると思うが、チャレンジしてみる機会、やってみる機会として捨てがたい。</td><td>・中国四国地区弁論大会など，氏名等の個人情報を提供することが前提の行事もあるが，個人情報の提供を可としない家庭および児童生徒が増えてきており，大会等に参加を促すことが困難になってきている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">人権・キャリア教育課</td><td>目標</td><td colspan="5">幼児児童生徒の発達段階に応じた人権教育の充実を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">具体的な活動計画</td><td rowspan="2">評価指標</td><td colspan="2">評価</td><td>学校関係者評価</td><td rowspan="2">次年度への課題と
今後の改善方策</td></tr>
<tr><td>評価指標による達成度
及び活動計画の実施状況</td><td>総合評価
（評定）</td><td>学校関係者の意見</td></tr>
<tr><td colspan="2">・生徒対象の人権教育に関する講演会を通して，身近な人権問題を考える。</td><td>・モニター等を活用し，個々の生徒の見え方に配慮して高等部生徒を対象に12月中に講演会を行い，70%以上の満足度を得る。</td><td>・モニター等は，講師の要望で資料無しで話すとのことだったので使用しなかった。12 月17 日に高等部普通科と手技療法科，専攻科1年生徒を対象に講演会を実施し，人権問題を考える機会となったが，満足度は50%にとどまった。</td><td>B</td><td></td><td>・4月に実施した人権意識調査の結果関心の高かった「いじめ問題」について，徳島県人権教育指導員に協力をいただき打ち合わせを行って実施をした。打ち合わせでは，生徒の年齢層が幅広いことやいじめを受けた経験があることに配慮してご自身の経験からのお話をしていただくことになったが，聞き手の生徒にとって重点やまとめがわかりにくいものとなってしまい，満足度も50%にとどまった。次年度は，高等部の生徒の実態より，講演会ではなく，日々の授業の中で人権教育を充実できるよう目標を設定したい。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">研究・情報課</td><td>目標</td><td colspan="5">「自ら考え，行動する力を！　～見直してみよう　いつもの授業～」をテーマに指導力・授業力向上に向けた研修を実施する。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">具体的な活動計画</td><td rowspan="2">評価指標</td><td colspan="2">評価</td><td>学校関係者評価</td><td rowspan="2">次年度への課題と
今後の改善方策</td></tr>
<tr><td>評価指標による達成度
及び活動計画の実施状況</td><td>総合評価
（評定）</td><td>学校関係者の意見</td></tr>
<tr><td colspan="2">幼児児童生徒の実態に応じた分かりやすい授業を実践するために，視覚障がい教育に関する研修や教員の「言葉」を大切にした授業を実践し，専門性の向上を図る。</td><td>①新転任者研修を実施する。
②個別の教育支援計画・個別の指導計画の研修を実施する。
③視覚障がい教育研修を実施する。
④研究・公開授業の年間計画を作成する。</td><td>・4月に新転任者研修（6回）及び個別の教育支援計画・個別の指導計画の研修を実施した。
・視覚障害教育研修（12回）実施した。
・6月に研究・公開授業の計画を作成した。</td><td>A</td><td></td><td>・特定の教員に負担がかからないよう講師の調整を行っていく。
・要望を取り入れた研修内容の検討。
・令和5度年以降の指導力・授業力向上に向けた研修テーマの検討。</td></tr>
</table>

重点目標（2）	幼児児童生徒の可能性を見据え，発達段階や適性に応じた進路指導の充実を図る。					
幼稚部	目標	カバンの片付け・準備や食事，排泄に関すること等，身の回りのことを自分でしようとする意欲を高める保育を実践します。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	評価 総合評価 （評定）	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
	・幼児が，自分でかばんの片付け・準備や食事，排泄に関することに取り組めるような保育活動を実施します。	・個別の指導計画の身辺自立に関する目標の評価が，80%以上◎か〇になる。 ・進級児については昨年度の方法を引き継ぎ，ステップアップが可能な場合は，その都度共通理解を図る。 ・「保育のふり返り」の中で，自分で取り組めた時の状況や幼児の様子，手立てについて共通理解を図る。	・身辺自立に関する目標の評価は，◎か〇が100%だった。 ・日々の振り返りの中で，幼児の様子や手立てについて共通理解を図った。 ・昨年度の方法を引き継ぎ，共通理解を図りながらステップアップをすすめた。	B	学校には0歳児から相談していて、不安なこと分からないことも多く、子どもにも身につけていってほしいことがたくさんありました。年度前半、いろいろな提案をしてくださったのは、とてもありがたかったです。	・次年度も継続して，自分の身の周りのことに取り組む意欲が高められるような保育活動を目指す。手立てについても共通理解を図る。
小学部	目標	一人一人の発達段階や適性に応じた指導・支援方法を充実させ，課題となっていることに取り組もうとする意欲を高められる教育活動を実践します。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	評価 総合評価 （評定）	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
	児童の実態や目標について学部内で共有し，指導の手立てや支援方法について話し合う。	・児童一人一人の自立活動シートを作成し，指導すべき課題の整理をする。 ・学部研修で児童のケース会を年間6回以上実施し，自立活動の時間における指導や個別の指導計画の目標・手立てについて学部内で共有する。 ・ケース会では，使用している教材や授業の様子の動画も活用する。	・児童一人ひとりの自立活動シートを作成した。 ・学部研修において，自立活動の時間における指導や実態についての共通理解を図ったり，作業療法士による授業コンサルテーションでの指導助言を共有したりする等をして，計6回ケース会を行った。 ・ケース会では，授業の様子を動画で見たり，使用している教材を実際に見たり触ったりした。	B	個人に合った教材等を用意してくださって，自分でできることが増えていてありがたいです。	・新入生が入学予定である。進級生も含め，より丁寧に一人ひとりの発達段階や実態に応じた指導・支援のため，教員の知識や専門性の向上が必要である。

高等部普通科	目標	保護者と連携を図りながら，協働し合い，生徒一人一人に応じた成長を促す。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	評価 総合評価 （評定）	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
	保護者との情報共有の機会を定期的に持ち，相互の理解を深める。	必要な情報はその都度共有し，学期に1回以上，保護者・本人・担任，進路に関する話し合いには必要に応じて進路指導主事を交えて面談を行う。	移行支援会議などの計画的な実施に加え，それぞれのクラスに応じて，本人，保護者，担任，進路指導主事とともに面談を実施した。送迎の際や電話等でも密に連絡を取り合った。	A	個別の指導計画に従って、学校と家庭がベクトルを合わせて取組をさせていただけています。	新入生が，高等部での生活をスムーズに送れるよう，中学部の教員や保護者との連携をとり，積極的に研修などを行う。

教務課	目標	各学部・学科の教育課程の検討を通して，幼児児童生徒の発達段階に応じた授業作りや進路指導につなげられるようにする。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	評価 総合評価 （評定）	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
	幼児児童生徒の発達段階に応じた授業実践を行えるよう，各学部・学科で令和4年度の教育課程について検討する。	①各学部・学科において教育課程についての検討会を学部会等の中で2回以上実施する。 ②年度末にアンケート等で意見を集約し，来年度の教育課程や時間割編成に活かせるようにする。 ③検討後，各学部・他の課とも連携し，個別の指導計画等に反映できるようにするとともに，全体に周知する。	①小学部では，はじめに教頭・学部長・教務課長と教科の表記や教育課程について検討会を実施した。8月下旬には学部でも検討会を実施し，児童の教育課程について話し合いを行った。中・高等部では，知的代替や自立活動主である重複クラス課程の見直しを行い，検討・変更した。また，高等部では，来年度からの新学習指導要領実施に向け，教科・単位等の検討を行った。また，各学部・学科それぞれ2回以上，検討することができた。 ②今年度の時間割の運用等を踏まえ，各担任や授業者に次年度の時間割についてのアンケートを実施中である。 ③各学部検討後，教務課内で情報を共有し，教育課程，個別の指導計画における教科の表記，記入内容について再確認した。学校支援システムを活用した指導要録の様式に反映できるよう，２月中旬に全体に周知を行う予定である。	B	生徒の可能性を見いだし伸ばす指導・教育をお願いします。進路の選択肢が広がるといいなと思います。	引き続き，幼児児童生徒の発達段階に応じた授業実践を行えるよう，教育課程の見直し・検討を行う。指導要録作成等，学校支援システムのスムーズな活用について，全体へ周知できるよう，教務課内で研修を行う。

人権・キャリア教育課	目標	幼児児童生徒のライフステージや発達段階，適性に応じたキャリア教育及び進路指導の充実を図る。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	評価 総合評価 （評定）	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
	・各学部・学科で発達段階や適性，本人や保護者のニーズに応じた活動や評価（チャレンジウィーク，施設見学，職場体験，就業体験，キャリア評価等）を実施する。	・幼稚部・小学部では，家庭と連携してチャレンジウィーク（お手伝い活動）に取り組み，評価表の提出（実施率）が80%以上を得る。 ・中学部1年生は，施設見学や職場体験を1人1回以上実施する。 ・高等部普通科は，施設見学や就業体験を1人1回以上実施する。 ・高等部手技療法科・鍼灸手技療法科では，来年度以降の施設見学や職場体験を充実したものにするため，キャリア評価を実施する。	・夏期休業中に家庭と連携してチャレンジウィーク（お手伝い活動）に取り組んだ。幼稚部・小学部では，評価表の提出が87%であった。 ・中学部1年生は，2カ所の施設で見学を実施し，3年生は2カ所の施設で体験を実施した。生徒の実態や本人・保護者のニーズに応じた場所で1人1回実施をすることができた。 ・高等部1年生は，2カ所の施設見学を実施し，3年生は進路に応じて1人1～3回実施した。 ・高等部手技療法科・鍼灸手技療法科では2回のキャリア評価を実施した。	A	施設見学など，個別に対応してくださることで一人一人を大切にしていることが伝わってきます。	・幼稚部～高等部普通科で実施しているチャレンジウィークについては，個人懇談等で保護者や本人と話し合い，発達段階に応じた内容で取り組むことができていた。次年度も家庭と連携をしてステップアップやチャレンジをしていけるよう教員に周知徹底していきたい。 ・コロナウィルス感染症のため，見学や体験について，制約がある期間があったが，時期を調整することで無事に実施をすることができた。次年度も制約がある期間や施設等がある可能性があるため，施設や事業所との調整や感染症対策を徹底して，関係機関や保護者と連携して実施をしていきたい。 ・高等部手技療法科・鍼灸手技療法科で実施したキャリア評価では生徒それぞれの課題を確認することができ，来年度以降の就職に向けたキャリア指導につながる指導を行っていくことを確認した。

重点目標（3）	地域での視覚障がい等に対する専門的支援と理解啓発，及び本校の教育活動に関する周知活動を推進する。

	目標	地域住民や徳島聴覚支援学校と連携し「防災体験活動」を行うことで，地域とのつながりを深めると共に，障がいに対する理解の推進を図る。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価（評定）	学校関係者の意見	
渉外・安全課	・地域住民に校内の施設設備を周知し，幼児・児童生徒の教育活動を知ってもらうと共に，地域の防災避難施設としての役割を果たすため，地域住民と聴覚支援学校と共に，感染症対策をふまえた合同防災体験活動を行う。	①徳島聴覚支援学校の担当者と連携し，地域住民に施設整備を周知する。 ②感染症対策をふまえた避難所を想定した合同防災体験活動の実施をする。	①教職員が地域住民に視・聴覚障がいの特性や，学校の設備について説明をしながら訓練を行うことができた。 ②徳島聴覚支援学校や地域の方を含め，約60名の参加者が2班に別れて，新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所の初期対応訓練を行った。受付の流れ，防護服の着用，テントの設置，避難所運営側と避難者側に分かれての初期対応訓練等，それぞれが体験したり役割をこなしたりする中で，スムーズな避難所開設にあたって必要な事項や物品を確認することができた。	A	内容の濃い防災訓練ができている。学校が全面的に協力してくださり、地域が頼る形になっている。災害発生時に学校を開放した場合の運営について訓練ができた。連携が良い状態となっている。地域が学校に対して貢献できることはないかと考えている。	・福祉避難所としての役割を果たすための知識を身につけていきたい。 ・「学校と地域との共助」という観点からも，障がい児・者への理解を深めていただけるように，今後も合同防災学習を継続し，交流を深めていきたい。

	目標	地域の園や学校に在籍する視覚障がい児に対して積極的な相談支援活動を行うとともに，本校の教育活動やセンター的機能について県内全域に周知する機会をもつ。				
	具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価（評定）	学校関係者の意見	
サポート課	・視覚障がい児・生が在籍する地域の園や学校に対し，相談支援活動を提案し，実施する。	・各学期に1回以上，対象児・生が在籍する学校と連絡を取り，巡回相談や来校相談の実施について提案する。 ・それぞれの視覚障がい児・生に対し，年1回以上の相談支援活動や情報提供を実施する。	・年度初めのあいさつや弱視学級担任者研修会を通じて，各担任やコーディネーターと1回以上連絡を取り合うことができた。その後の支援については，それぞれの対象児・生によって回数や相談実施形態が異なるが，電話相談，巡回相談，来校相談，情報提供などを25回実施した。	B		・定期的な支援ができているケースは今後も継続する。次年度は，今年度の相談支援活動が少なかった対象児・生に対して，より積極的に連絡を取り，相談支援を行う。
	・県下全域の園や学校，眼科に対し，本校のセンター的機能について啓発するチラシを送付する。	・本校の相談活動（来校相談・巡回相談），乳幼児教育相談，弱視通級指導教室，児童生徒・職員・保護者に対する研修支援活動等についてまとめたチラシを作成し，送付する。	・県下の新型コロナウイルス感染状況を考慮したこと，校内の相談体制が十分に整わない状況であったことなどから，積極的にチラシを送付する啓発活動は実施することができなかった。	B	視覚障がいへの理解はまだ乏しいと感じます。支援と啓発を行っていただきたいです。	・校内外の相談に対応する人員が大きく不足しており，相談支援活動や啓発活動が滞っている。課の枠を超え，学校全体としてセンター的機能を展開する人員の育成が望まれる。

<table>
<tr><td colspan="2">重点目標（4）</td><td colspan="6">会議の在り方を工夫するとともに，可能な限り校務の省力化を図ることにより，働き方改革を推進する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">寄宿舎</td><td>目標</td><td colspan="6">業務の精選や会議の効率化を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">具体的な活動計画</td><td rowspan="2">評価指標</td><td colspan="2">評価</td><td>学校関係者評価</td><td rowspan="2">次年度への課題と
今後の改善方策</td></tr>
<tr><td>評価指標による達成度
及び活動計画の実施状況</td><td>総合評価
（評定）</td><td>学校関係者の意見</td></tr>
<tr><td colspan="2">・個人情報の取り扱いに注意しつつICTを効果的に活用する。
・事前に担当者が検討議題をホワイトボードに記入し，会議を効率的に実施する。</td><td>・iPadの基本的活用，アプリの使い方，データを守るための方法等を学び，業務の効率化に取り入れる。
・会議の開始と終了時間を明確にして，検討等が必要な内容に優先順位をつける。
・会議の時間を1時間以内に設定し，会議を予定時刻までに終了することのできた日が，年間実施日の80%以上である。</td><td>・ICTサポーターよりiPadでのZoomの基本的な操作方法，視覚障がい者のためのアプリの活用方法，教育Cloudの使い方の研修を受け，基本的な使い方を習得した。また業務の負担を軽減できるよう，職員間での連絡事項や資料の共有などにTeamsを活用している。
・会議の開始時間と終了時間を表に記入したり，予定時間を設定したりしたことで職員全体の意識が高まり，協力体制ができた。また議題を事前に，検討事項と連絡事項に分け，優先順位を付けて話し合うことで，会議時間の短縮につながった。
・寄宿舎全体会議・視覚職員会議を予定時刻までに終了することのできた日が，年間実施回数の80%以上あり目標を達成した。（80．3%：45回／56回中）</td><td>A</td><td>会議の前に資料を配り、会議までに読んで考える時間を作ることが大切と思う。そうすると会議の時にいろいろと意見が出て、会議が活発になる。</td><td>・今後はICT研修で学んだ知識をもとに職員間で情報共有をしたり，使い慣れた職員が他の職員に使用方法を伝達したりして，職員の資料作りや舎生の支援に活用できるようにする。また引き続き，合同行事や舎生の情報保障にICTを活用したい。

・事前に検討内容や連絡事項の内容を職員間で周知しておくことで，検討時間の短縮と，十分な職員間の情報共有に努めていきたい。</td></tr>
</table>